

# 近畿・東海・北陸ブロックで交流

## 青年の仲間づくりと連帯を

### 九州ブロックからも 連帯するごとの意義を報告

12月17日、午後1時30分～18日正午にかけて、第3回近畿・東海・北陸ブロック青年交流学習会が同和企業センターおよび岩橋児童館他でおこなわれた。

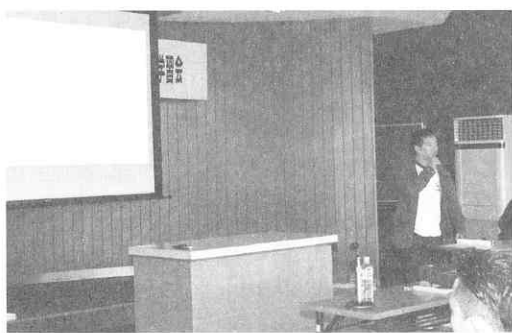
はじめに、地元歓迎あいさつとして、藤本哲史・和歌山県連委員長から「近畿・東海・北陸ブロック青年交流学習会がこの和歌山で開催されたことを熱烈に歓迎します。また、部落差別の解消の推進に関する法律が成立したが、今青年が、この法律をうけて、この和歌山でゆつくりと議論して、交流を深めていただきたい」とあいさつした。

つづいて、川口正志、近畿・東海・北陸地方協議会議長から「近畿・東海・北陸ブロックの活動家が集



解放運動について語る川口正志・近畿・東海・北陸ブロック議長

まっして学習をすることに心から敬意を称します」とあいさつののち、「部落解放運動に参画と題して、差別があるから部落解放同盟があり、自分自身の結婚差別を受けたことや企業連組織



九州ブロックからの報告

他、様々な問題」について講演された。つづいて、各府県連の活動報告があり、和歌山からは、井端尚司・青年副部長から「県内の各支部にオルグ活動を展開したことや全高・全青報告会及びスポーツ交流会などのとりくみ」を報告した。その後、九州ブロックから綾田直樹・鹿児島県連、宮守剛・熊本県連、木下由貴・

熊本県連から「結成から現在というところで、九ブロックの活動内容のとりくみ・熊本地震などについて」報告された。

2日目は、福島隆志・岩橋支部支部長から岩橋のムラの説明があり、その後、納豆工場視察や岩橋地区内視察2コースに分かれておこなった。フィールドワーク終了後、岩橋児童館で、岩橋地区のようすと題して、福島隆志・岩橋支部支部長から「なぜ、岩橋と



九州ブロック青年部から

書いて、いわせ」と呼ぶのか、支部の結成や青年部の



参加者全員で記念撮影

結成などについて」説明があった。最後に、辻川智徳・中央青年対策部員は、初日の講演や各府県連の活動報告・九州ブロックの青年部の結成についてや夕食交流会で各府県連青年部と交流を深められたと閉会まとめとして、第3回近畿・東海・北陸ブロック青年交流学習会が終了した。

### 連載 (4) 後50年

### 解放の父・松本治一郎⑥

没後50年を迎える「松本治一郎」の連載6回目。

松本治一郎が「福岡連隊爆破未遂事件」というでっぴち上げによって福岡刑務所に繋がれ、2年半ぶりに帰ってきたとき、全国水平社は内部の路線対立によって衰退していた。復帰最初の仕事は、運動の再建を図ることであり、そのための新運動方針を確立することであった。そして、従来のような差別糾弾一辺倒ではなく、部落の住民の日常生活の向上と要求の集約を中心とした「部落委員会活動」をすすめる、従来の枠組みにとらわれない大衆運動として再スタートすることになったのである。1933年、昭和8年の第11回大会(福岡)でのことである。

同じ年、治一郎が「解放の父」と呼ばれるきっかけになった「高松差別裁判」が起きる。

事件は、部落の青年が結婚(同棲)にかかわって「特殊部落民でありながら、自分の身分をことさら隠し、甘言・詐謀をもって同女を誘拐(論告・求刑)」と逮捕され、裁判で有罪とされたことであった。封建的身分は明治4年の太政官布告によって解消されたにもかかわらず「自分が部落民であることを言わなかったのが犯罪である」という、まったく理不尽なものであった。さらに、裁判のなかで「特殊部落民」という言葉

が度々使われていた。

治一郎の指示のもと高松地裁での差別裁判の糾弾のうねりは全国に広がっていった。このことを治一郎は「今までの弾圧は、我々の闘いに対してであった。(中略)しかし、高松の事件は、我々が何もなくても、部落民という存在自体が罪になるということだ」と述べている。高松地裁の差別裁判への憤慨は想像をはるかに超えたもので、これまでの差別事件では類がないほどであった。そして糾弾闘争は、全国各地の圧倒的な支えのなかですすめられた。

そして「差別判決を取り消せ!さもなければ解放令を取り消せ!」をスローガンに、全国部落代表者会議、各地での報告会、「高松差別判決取消請願大行進」など次々と展開されるとともに、この糾弾闘争は、各地の生活要求実現へのとりくみも連けいしていった。

結果、判決の取消はなかったが、犠牲者の即時釈放、司法大臣の謝罪と再発防止の通達、関係検事、裁判官の配置転換という成果を上げた。しかしそれ以上に大きかったのが全国の部落に「共通感情」を呼び起こし、組織を拡大させてきたことであり、闘争を支えた「部落委員会活動」の定着であった。

(以下次号へ)